

※応募書類の到着順

■マルタ・ボスコロ・マルチ / **Marta Boscolo Marchi, Italian, born in 1975.**

I work in the field of Italian and Japanese culture and art history.

□**EDUCATIONAL TRAINING AND RESEARCHES**

2008-2011. In 2011 I had my PhD exam at Padua University (Archaeological and Cultural Heritage Department) in the field of the romanesque and Gothic sculpture and architecture, with a thesis titled Ferrara Cathedral during the Middle Age: Iconographic Issues and Building Phases.

2002-2006. In 2006 I had my postgraduate degree in medieval art history (70/70 with honors) at Padua University - Archaeological and Cultural Heritage Department? Postgraduate school in history of art and applied art. The title of the thesis was The success of Nicholaus workshop along the Adriatic coast: aspects and questions

In 2000 I had a scholarship from the Foreign Affairs Ministry of Cyprus, Department of Antiquities, to study the Byzantine iconography related to the Last Judgement in Cyprus frescoes between XII and XIV century.

1993-1998. In 1998 I had the Master degree in Disciplines of arts, music and show (110/110 with honors), at Bologna University - Department of visual arts, with a thesis titled the illuminations of Bamberg apocalypse and the Byzantine cultural legacy.

□**PROFESSIONAL EXPERIENCES**

Since February 2016, as official of the Italian Ministry for Cultural Heritage and Activities, I am the director of Oriental art Museum in Venice and the director of the Historical Archive of Venetian museum pole. I manage for the preservation of the Oriental art collection and plan the promotion through exhibitions, conferences, study programs with Italian and foreign Universities.

In the archive I direct the cataloguing and the reorganization of the historical documents of the Venetian museums and protection activity of artworks in Venice.

From 2012 to 2015, as official of the Italian Ministry I was the supervisor of the restoration activity in a part of Venice area and I was the curator of Oriental Art museum. I took part at the art export committee and to the activity of the historical archive of the Venetian Superintendence. I organized the exhibition about Hiroshige in the Oriental art Museum of Venice and the exhibition about Hokusai, collaborating to the printed catalogue.

In 2008, as a lecturer (temporary employee), I teach medieval art at Padua university - Archaeological and Cultural Heritage Department.

In 2006 I was art historian at Ministry for Cultural Heritage - Superintendence for the Historical, Artistic and Anthropological Heritage of Veneto region, for the cataloguing of historical pictures

In 2005 I catalogued the historical documents related to restoration at the Ministry for Cultural Heritage - Superintendence for the Historical, Artistic and Anthropological Heritage of Veneto region.

From 2004 to 2009, as art historian, I catalogued paintings, sculptures, textiles, silverware for the Italian Catholic Church, Padua bishopric in Padua and Venice patriarchate, Venice

(日本語訳)

イタリアおよび日本文化・美術史を専門としています。

□学歴

2008-2011 パドヴァ大学考古学文化財学科にて博士号を取得。

博士論文タイトル：“Ferrara Cathedral during the Middle Age: Iconographic Issues and Building Phases”, 2011

2002-2006 パドヴァ大学大学院にて中世美術史を専攻。

論文タイトル：“The success of Nicholaus workshop along the Adriatic coast: aspects and questions”, 2006

2001 キプロス外務省からの奨学金を受け、12～14世紀のキプロスのフレスコ画に見る「最後の審判」に関連したビザンチン図像学について研究。

1993-1998 ボローニャ大学の視覚芸術学科にて修士号を取得。

修士論文タイトル：“The illuminations of Bamberg apocalypse and the Byzantine cultural legacy”, 1998

□職歴

2016年2月よりイタリア文化省職員としてヴェネツィア東洋美術館およびヴェネツィア考古学博物館歴史アーカイブのディレクターを務めています。東洋美術コレクションの保存、展覧会や会議の開催、イタリア国内外の大学との共同研究プログラムを通じたプロモーションを行っています。

また、ヴェネツィアの美術館・博物館およびヴェネツィアにおける芸術作品の保護活動に関する歴史的記録資料の目録作成・再編成にも取り組んでいます。

2012年から2015年まで、イタリア政府職員としてヴェネツィア地区の復元活動の監督を行い、そしてまたヴェネツィア東洋美術館学芸員として勤務しました。ヴェネツィア監督局の歴史アーカイブや輸出管理の仕事も行いました。ヴェネツィア東洋美術館では、歌川広重、葛飾北斎を取り上げた展覧会を企画・開催しました。

2008年、パドヴァ大学非常勤講師として中世美術の講義を担当しました。

2006年、美術史家としてイタリア文化財省に勤務、ヴェネト州の歴史・芸術・人類学遺産の管理および歴史写真資料の目録作成の監督を行いました。

2005年、イタリア文化省、ヴェネト州歴史・芸術・人類学遺産監督局にて、修復に関する歴史資料の目録作成を行いました。

2004年から2009年まで、美術史家としてイタリアのカトリック教会であるパドヴァの司教とヴェネツィアの総主教の絵画、彫刻、テキスタイル、銀製品の目録を作成しました。



■メレット・ピーターセン / Merete Pedersen

□学歴:

1986 コペンハーゲン大学 東洋学部(旧名) 日本語学科 修士 (M.A. in Japanese Language and Culture, East Asian Institute, University of Copenhagen, Denmark) 日本語の歴史的变化・日本文学や伝統文化・日本歴史学専攻 オロフ G.リディン Olof G. Lidin 教授 の元で学ばせていただきました。

修士論文の題目: 「講座派・労農派の論争と E.H. ノーマン (Edgerton Herbert Norman (1909–1957)の著作活動との関係 : 『日本における近代国家の成立』、『日本における兵士と農民』を中心して)

1989 ビジネス英語と技術英語 コペンハーゲン商科大学 Diploma degree in English business communication and technical language (Copenhagen Business School)

2009 初等教育レベルと前期中等教育レベルの教育課程を終了した
Qualified teacher for Danish elementary and middle school

その他：

- 1975-1976 東海大学別科日本語研修課程 東海大学とデンマーク文部省との協定で交換留学生、M. V. ロモノソフ・モスクワ国立総合大学の大学院生のため開設された特別課程に入れていただきました。
- 1990 平成 2 年 国際交流基金日本語国際センター海外日本語教師短期研修（夏期）
Short-term training program for foreign teachers of the Japanese language at The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa (July-August 1990)
- 1998 平成 10 年度日本研究司書研修プログラム The Japan Foundation/National Diet Library training program for Japanese studies librarians

□職歴

- 1988-1992 VUC i Greve 高等予備試験（HF）において日本語の授業（代用教員）
- 1991-1993 Mulernes Legatskole 高等学校において日本語の授業（代用教員）
- 1993-1996 Copenhagen Business School コペンハーゲン商科大学の外国語科目 日本語・日本学科の講師
- 1989-2002 デンマーク王立図書館（Det Kongelige Bibliotek）東洋学・ユダヤ学のセンター Center for Orientalia og Judaica: 日本主題専門司書 Japanese subject specialist librarian
- 1996-2016 コペンハーゲン大学、アジア学部 Asien Section（旧東洋学部）アジア図書館 Asian Section's Library の日本語主題司書。元は中国語主題司書と日本語主題司書が二人で図書館を担当しました。
- 2011-2014 和古書の稀書目録の制作のために一時的に王立図書館に雇われていた。

参考: *Catalogue of Japanese manuscripts and rare books* <http://ci.nii.ac.jp/ncid/BB17796222>

□自己紹介

長年にわたってアジア図書館 Asian Section's Library の図書館を担当しました。司書の仕事と言うと、元は図書館づくりで本を集めるところから始まりまして、資料受け入れのプロセス、資料組織化のプロセス(MARC の形でインターネット OPAC に入れること)など、主な仕事でした。しかしこの数年間、学術情報デジタル化時代の大学図書館の司書の仕事は本を集めるより学術研究活動を支える デジタル学術情報をどういうふう利用することを紹介する方が大切になりました。個人的な接触やワークショップや会議でのプレゼンテーションでオープンアクセス open access データベースも有料データベースも(NIAS AsiaPortal に通じて)どちらでも大事で、教師達と学生達に紹介しています。そしてその関連したサービス、国立国会図書館の複写サービスなどを利用して、文献・資料入手・ダウンロードやコピーも日本語主題司書の責任となりました。

□Asian Section's Library の職場の紹介：

日本語・中国語・韓国語の資料を所蔵するコペンハーゲン大学の The Department of Cross-Cultural and Regional Studies（横断文化地域研究学部）の一部局として、Asian Section's Library（アジア図書館）があり、専門は日本研究・中国研究・韓国研究・インド研究・チベット研究・タイの研究などであり、日本語・中国語・韓国語・サンスクリット語・チベット語・タイ語などの資料そしてその参考書、研究論文などを所蔵している。2013 年にアジア学のほかにアメリカインディアン学、東ヨーロッパ学、イスラーム学 アラビア学などが一つの建物に集まってきて、そして各図書館蔵書も同じ建物に集まってきました。

デンマーク王立図書館（Det Kongelige Bibliotek）東洋学・ユダヤ学のセンター Center for Orientalia og Judaica の日本主題専門司書は日本語の書籍の蔵書を扱う責任者です。予算の限りで資料の受け入れ、資料組織化のプロセスと図書館の情報サービスなど職務内容は様々あります。

□Center for Orientalia og Judaica の職場の紹介：

旧名は Oriental Department 東洋学の部門です。50 年間の間に収集した書籍蔵書は東洋の聖典の文献 クルアーン、アベスタ、仏の教え、ヴェーダ、孔子、神道など、東洋の古典文

学、現代文学も最近含めている、古文書、そしてその参考書、研究論文など、そして図書館司書の参考書などからなっています。

東洋学の部門の主な役割もいわゆる博物館のコレクション Museum Collection を保つことです。博物館のコレクションはデンマークの旅行者や研究者が、アジアや北アフリカで収集して持ってきた古文書、印刷物、地図、絵などの価値のある事物等のコレクションからなっています。例えばアラビア探検隊の中で有名なオリエント学者カールステン・ニーブールの Carsten Niebuhr 1733-1815 のコレクションや、デンマークの言語学者ラスムス・ラスク Rasmus Rask 1787-1832 が収集したインドのヤシの葉の古文書など。この部門は 2011 年に閉鎖されました。江戸・明治時代の和古書・地図・浮世絵なども Museum Collection の蔵書一部です。

□将来の展望：

Catalogue of Japanese manuscripts and rare books を制作して、和古書についていろんなことを調べるためにインターネットを使って、今まで知らなかった重要な電子リソース・イメージデータベースなど幾つも出会って、日本は優れた学術情報の電子リソースを構築していることが分かるようになりました。そして江戸時代の絵本、画布、浮世絵などを調べつつ、日本の美術文化に対する知識を得ました。

JAL project に参加させていただいて、一層日本の美術文化と電子リソースに対する知識や見聞を広げることを期待して、その知識を世間に伝えたいと思います。



■クリスティン・ウィリアムズ / Kristin Williams

□学歴：

Mary Baldwin College (メリーボルドウィンカレッジ), 学士 (演劇)

B.A. in Theatre, Mary Baldwin College, USA

University of Pennsylvania (ペンシルバニア大学), 修士 (アジアと中東研究)

M.A. in Asian and Middle Eastern Studies, University of Pennsylvania, USA

Harvard University (ハーバード大学), 博士 (日本文学)

Ph.D. in Japanese Literature, Harvard University, Massachusetts (MA), USA

Simmons College (シモンズカレッジ), 修士課程在学中 (図書館情報学)

M.S. in Library and Information Science (expected 2018), Simmons College, MA, USA

□職歴：

2016-現在 Head of Japanese Section at Cambridge University Library, Cambridge, UK

2012-2016 Associate in Research, Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University

2015-2015 Evening Reference Assistant at O'Neill Library, Boston College, MA, USA

2013-2015 Mellon Postdoctoral Fellow at Wellesley College, MA, USA

2012-2015 Japanese Book Documentation Project Volunteer, Museum of Fine Arts Boston, MA, USA

2008-2010 Monbukagakusho Research Student (文部科学省研究留学生) at Tokyo Gakugei University (東京学芸大学), Japan

2007-2008 Lecturer, Department of Modern Languages at University of Massachusetts Boston, MA, USA

2005-2008 Teaching Fellow / Graduate Student Worker at Harvard University

□自己紹介：

私はケンブリッジ大学付属図書館で日本部主任として働いています。ケンブリッジ日本語コレクションがヨーロッパの重要な日本語のコレクションのひとつで、ケンブリッジの学者も日本の学者もその蔵書を使っています。ケンブリッジ大学は、図書館の日本部以外に日本美術資料がフィッツウィリアム美術館にもあります。

ケンブリッジ大学附属図書館には日本語コレクションが二つあります。近現代に出版された日本語の本を教授などの研究者のために集めています。近現代コレクションは近世歴史や文学そして二十世紀の戦前研究が強点となります。美術にかかわる研究をこれから強化する機会があるかもしれません。

図書館は近世以前の資料もあります。アストン・サトウ・シーボルト・コレクションというのは明治時代に集めた和本や巻物のコレクションになります。その貴重な本は図会が多くて、美術資料としても大事です。注目すべきなのは『増補浮世絵類考』の下書きがあり、その中に近世美術家の写楽に触れることが載っています。

デジタル化によって、ケンブリッジ大学所蔵和本コレクションをより多くの人々に紹介したいと思います。そのコレクションの330冊以上がもうデジタル化してあります。今デジタル図書館は、『増補浮世絵類考』を含めて、21冊が展示されています。私はこれからそのデジタル画像のためにメタデータを作り、デジタル図書館に展示するものを増やしたいと思います。

私は司書になる前にハーバード大学で近世日本文学の博士号を取得しました。博士論文が江戸時代の子供向け出版物のなかで子供の活動や服装を見て、内容や言葉遣いを考えて、近世日本における子供の概念について論じたものでありました。これからその研究を整理して本で紹介したいと思います。



■ テロ・サロマー / Tero Salomaa

□ 学歴:

1994 University of Helsinki, MA in East Asian Studies (Japanology)

□ 職歴:

2012- 現在、北海道大学ヨーロッパオフィス副所長

1995-2012 自営 (出版社など)

ヘルシンキ大学東アジア学科に入学。大学時代からフィンランドにある日本コレクションに興味があり、国立大学の日本コレクションの目録を完成させました。

2012年からは北海道大学のヘルシンキ (ヨーロッパオフィス) に勤務しています。北海道大学のヨーロッパオフィスで北海道大学を広くヨーロッパに知ってもらい、またヨーロッパの情報を北海道大学やその研究者に伝える仕事をしています。

『フィンランドにある、知られていない日本文化コレクション探し』

フィンランドには日本文化コレクションが多数あり、目録にもなく知られていないものも多数あります。

フィンランドで埋もれている日本の作品やものを探して目録を作る準備をしています。そのために広域にわたる日本の文化に関する資料とそのデータベースの使い方を習得したいと思います。目録を制作することにより広く、深く日本文化を知り、それを伝え、解説していくことが目的でもあります。



■ ヴァレンティナ・フォルミサノ / Valentina Formisano

□ 学歴:

2006 B.A. in Languages and Cultures of Asia and Africa, Faculty of Letters and Philosophy, University of Naples "L'Orientale", Naples, Italy

2008-2009 Exchange student at the Gakushuin University, Faculty of Letters, Tokyo, Japan

2011 M.A. in Languages and Cultures of Asia and Africa, Faculty of Letters and Philosophy, University of Naples "L'Orientale", Naples, Italy

2011.11-12 Business Japanese Course, Asian Studies Group, Milan, Italy

- 2012.1-3 Full time Japanese Language Course (Advanced I), Shibuya Gaigo Gakuin, Tokyo, Japan
- 2013-2015 ISHIBASHI Foundation Scholarship, Tokyo, Japan
- 2013-2015 Research Student at the University of Tsukuba, Doctoral Program in Art and Design, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Tsukuba, Japan
- 2016 Ph. D. in Eastern and Southern Asian Studies, University of Naples “L’Orientale”, Naples, Italy

□職歴:

2016.4- 現在 Gallery curator at “Raffaele Celentano Art Gallery”, Sorrento (Naples), Italy

□自己紹介:

私はイタリアのナポリ東洋大学 (University of Naples “L’Orientale”)に入ってから、日本美術に夢中になりました。私の専攻は日本近代美術で、特に日本とヨーロッパ間の芸術文化交流について関心を持っています。研究テーマは、近代において日本人画家がどのように洋画様式を確立したかについてです。修士論“Kuroda Seiki e la pittura in stile occidentale”では黒田清輝と洋画 について論じました。修士課程在籍中に、ナポリ東洋大学から奨学金を受けて、学習院大学に1年間留学しました。その時に、論文を書くための研究活動を行いました。具体的に東京文化財研究所と東京近代美術館のアーカイブで貴重な資料を集めることができました。日本で収集した資料を分析して、論文を執筆しました。

帰国後、専門的なレベルで日本近代美術に関して研究を行うため、ナポリ東洋大学の博士課程に進みました。博士論文では (“Il movimento pittorico futurista nel Giappone del XX secolo”), 20世紀の日本の画壇におけるイタリアの未来派の影響を分析することとしました。博士課程在籍中に石橋財団奨学金をいただき、筑波大学に特別研究生として入りました。2年間の留学の間に、博士論文を書くために資料調査を行いました。

大学院修了後、私は日本の洋画美術に関して学術的なレベルで研究を続けていくため、JAL PROJECTに参加させていただけたかったです。このような国際的な研修に参加することにより、日本美術の研究者と司書間の相互交流や情報・意見交換を進めることができると思っております。また、国際的な視野では、研究者と日本美術資料の専門家間の相互協力によって世界中に日本の美術の知識を普及できると思っております。ひいては、相互理解を築くことにより、言葉と文化の壁を破壊できると考えております。この重要な目的を果たすためにも、今回の研修は良い機会になると感じております。

又、今年の4月からソレント (イタリア)にあるアートギャラリー (Raffaele Celentano Art Gallery)にキュレーターとして働いています。



■長橋広行・グッド / Hiroyuki Nagahashi Good

□学歴:

MLIS, UCLA, U.S.A. (図書館情報学修士、カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

MA, California State University, Long Beach, U.S.A. (中国学修士、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)

社会学学士、創価大学 (BA, Soka University, JAPAN)

交換留学生、香港中文大学 (Exchange Student, Chinese University of Hong Kong, H.K.)

□職歴—図書館・博物館関連:

2006- Japanese Studies Librarian, East Asian Library, University of Pittsburgh, U.S.A.

2004-2006 Japanese Cataloger, East Asian Library, University of Pittsburgh, U.S.A.

2002-2004 Library Assistant, East Asian Library, UCLA, U.S.A.

1989-2003 全米日系人博物館 Japanese American National Museum, Los Angeles 日系アメリカ人の歴史と体験を伝える同館の構想段階からボランティアとして参加 (当時はカリフォルニア州立大学ロングビーチ校の修士生でした)。開館後は日系二世、三世と日本との架け

橋として日本経団連への助成金 (10 億円)の取得、展示の日本語翻訳、日本語ウェブサイトの立上げなど通訳および広報担当。天皇皇后両陛下はじめ多方面からの訪問視察団の受入れ、海外日系人会 (ペルー、ブラジル、カナダ)との交流や海外での国際会議にも同館の代表として参加しました。

□職歴ービジネス関連：

1984-1988 新生交易株式会社 (東京、日本) 84-86 年は本社勤務、86-88 年は北京事務所駐在員。

□自己紹介：

北米ピッツバーグ大学図書館日本学司書のグッド長橋広行と申します。グッドと申しまして、日本人の両親のもとに東京で生まれた日本人です。米国籍取得によりグッド姓になりました。私は、広行という名のとおり、広く行動することに縁が深いようです。大学在学中に交換留学生に選ばれて香港で二年間過ごし、その間に中国本土と東南アジア諸国を旅行しました。卒業後は日中専門商社に勤務し北京に駐在しました。それらのアジアでの経験から、米国という国に興味がわきました。そして 28 歳で渡米しました。アジアを北米から見る、という研究生活から始まり、第二次世界大戦中の日系アメリカ人が強制収容所へ入れられた歴史を伝える全米日系人博物館に勤務。そして日本学研究者のサポートをする現職に就き、これが私の天職だと思う日々を送っております。

ピッツバーグ大学では日本美術史学者として著名なカレン・ガーハート教授の研究室で、博士後期課程の学生たちが鎌倉時代から江戸時代の様々な作品の歴史的、文化的、政治的背景の広範囲の研究活動に励んでいます。最近の研究対象を挙げると、足利義教將軍の室礼、石山寺縁起絵巻に描かれた儀式、舍利信仰に由来する繡仏と曼荼羅、浅井三姉妹の肖像画など多岐に亘っています。インターネットが発達し海外に居ながら相当な情報へのアクセスが叶うとはいえ、彼らの研究に必要な資料をオンラインのみで提供できるわけがありません。今回の研修で国立博物館、資料館に伺って一級美術資料を見学させて頂けること、日本屈指の美術関係機関の図書館員、学芸員の方々とお会いできることを心より楽しみにしています。この機会に得る成果を北米に持ち帰り、ピッツバーグ大学だけでなく北米の日本美術研究者への支援が出来るようになりたいと願っております。



■ウェイン・アンドリュー・クロザース / Wayne Andrew Crothers

□学歴：

1980-82 オーストラリア メルボルン ヴィクトリア大学美術科卒業

1992-94 京都精華大学 研究生

1994-96 多摩美術大学 大学院 修士課程美術版画専攻終了

□主な職歴：

1996 アートスタジオ五日市に招待される 東京

1997 バンダノン トラストに招待される オーストラリア シドニー美術大学 講師(5月)、シドニー アーティスト イン レジデンス オーストラリア国立大学 キャンベラ

1997-99 オーストラリア国立大学講師、キャンベラ

2001 ピラーイホワンミロ財団より招待された アーティスト イン レジデンス、マジョルカ・スペイン

2002 ピラーイホワンミロ財団より招待されて特別講師となる、マジョルカ・スペイン

2002-03 武蔵野美術大学外国人招待研究員となる、東京

2003 ラフィエット カレッジにて 特別講師、ペンシルバニア・アメリカ

2003-06 武蔵野美術大学非常勤講師、東京

2004 ジュール市国際アーティストシンポジウムにゲストとして参加、ジュール・ハンガリー

- 2005 ピラーイホワンミロ財団より招待されて特別講師となる、マジョルカ・スペイン
- 2007 オーストラリア国立大学にてオーストラリア プリント シンポジウムのゲストスピーカーとして講演、キャンベラ
- 2007 ツワリヴィエで開催されたインターナショナル プリント ビエンナーレ展に参加、ケベック州・カナダ
- 2008 オーストラリア国立大学講師、キャンベラ
- 2009 四川州中国芸術院講師、中国
- 2009 アーティスト インレジデンスとしてエンGRAM、スタジオに招待される、ケベック市・カナダ
- 2009 EU アーティスト ブック シンポジウムにゲストスピーカーとして招待される、ビルニウス・リトアニア
- 2009-16 現在まで、アジア美術のキュレーターとして、ビクトリア州国立美術館(NGV)で活躍、メルボルン・オーストラリア

□ビクトリア州国立美術館：

オーストラリアではビクトリア州国立美術館のアジアのキュレーターとして、特に日本美術に関しては次に挙げることに焦点をおいております。

- ・ 歴史的なものと同現代美術を区別しての展示会。
- ・ 期間的に 展示を変えるものと常時展示されるものとの区別。
- ・ 発想的視覚に訴えるマルチメディア、ビデオなどを使ったプレゼンテーションなどの作成。
- ・ 本や雑誌あるいはインターネットなどの掲載のために書く記事。
- ・ 日本美術品のギャラリーでのラベルの作成のための調査研究。
- ・ 新しい美術品取得のための調査研究
- ・ NGV を訪れる一般の来館者への美術に関する講義、マスコミのインタビューへの対応と日本美術に関するプレゼンテーション
- ・ NGV の日本美術品を貯蔵保持するコンサベーターへの協力。

僕の過去 6 年間での NGV での成就したことは：

- ・ オーストラリアで最大かつ最高品質を誇る日本美術品の展示室のデザイン作成をしたこと。
- ・ NGV に収集されている日本の重要アートワーク調査研究、出版、展示

次の 6 項目の日本展覧会を製作。

1. 茶道と禅 Tea and Zen
2. 釈迦の道 In the steps of the Buddha
3. 武士道 Bushido: Way of the Samurai
4. 根来、日本中世の漆器 Negoro: Medieval Japanese lacquer
5. 竹：伝統から現代 Bamboo: Tradition in contemporary form
6. 岩崎貴宏の巖島神社 Takahiro Iwasaki, Reflection Model Itsukushima



■ゲルガナ・ペトコヴァ / Гергана Петкова ; Gergana Petkova

<https://sites.google.com/site/gesiclass/about-me>

□学歴：

ブルガリア、ソフィア大学、日本学専攻卒業 (BA+MA in Japanese Studies, 1999)。スイス、チューリヒ大学で博士課程(2000-2004)。卒業後ブルガリア、ソフィア大学日本学専攻で非常勤、2007 年から助手。ソフィア大学にて准教授(2012-)。

ソフィア大学日本学専攻担当(2010-2015)。学士課程日本学専攻のカリキュラムの作成と更新担当、日本語クラスのコーディネーター(2013-)。学部と大学院レベルで日本民俗学、日本古典、口承文学、翻訳と解釈を指導。

□研究：

1999 年から日本昔話の研究に入って、民話研究論文 20 以上。その内、『日本本格昔話におけ

る男性登場人物：その分析と役割』(Male Characters in the Japanese fairy tale: Classification and Analysis, 2004)；『軌跡の家：日本本格昔話における建築象徴性』(2012)、「日本の昔話における夢—タイプ、機能と現実との関係性—」(2016)、「異文化間コミュニケーション：ブルガリアにおける日本民話のレセプション」(2010)、「昔話翻訳上の問題点をめぐって—ブルガリアと日本の昔話を例に—」(2009)など。

日本昔話、口承文芸、民俗学、日本伝統文化をブルガリア人にはじめて紹介する論文：『日本民俗学入門』(2011)、『ブルガリアにおける日本文化とそのレセプション』(2012)、「日本陶磁器史と比較」(2009)、「日本民家とブルガリアの家：比較の覚書」(2009)、など。

現在研究テーマ：時間、夜と夢の概念と日本の物語文学

外国人研究員 (国際日本文化研究センター、2014.4-10)

フェローシップ：国際交流基金日本研究フェローシップ (2002、2007、2011)

プロジェクト：バルカン半島日本語サマーキャンプ (プロジェクトリーダー、2013-2015)；ブルガリア国立民俗学博物館で「日本文化展示」を開く(共同プロジェクト、ソフィア大学プロジェクトリーダー、2014)；ソフィア市、Lyulin 学区で行われる『日本語と日本文化の昇進』、学生のモチベーションを上げるための対策 (共同プロジェクト、ソフィア大学プロジェクトリーダー、2014-)；『伊勢物語とその最初のブルガリア語の翻訳』、学生のモチベーションとキャリア準備対策(プロジェクトリーダー、2014-)など。

□所属機関：

ソフィア大学日本学専攻は、1990年に開設され、ブルガリアの日本語教育と日本文化教育の拠点となり、現在、当専攻はブルガリアで唯一学部・修士・博士レベルの日本語と日本文化に関する教育を行う機関となっている。

学士課程の科目は日本語の授業(約1,500時間)、および日本学の授業(約1,500時間)から成り、その中に日本古典文学、日本宗教および日本文化、日本文学、日本歴史、日本事情、日本経済、日本民族誌などの講義を持っている。



■アウローラ・カネパーリ / Aurora Canepari

□学歴：

2012 Ca' Foscari University of Venice (ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学)、 学士 (東アジア言語と文化・日本課程)

2012 B.A. in Languages and Cultures of Eastern Asia, Japan curriculum, University Ca' Foscari of Venice, Italy

2014 Ca' Foscari University of Venice (ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学)、 修士(アジアと地中海アフリカ言語と文化・日本課程)

2012 M.A. in Language and civilisation of Asia and mediterranean Africa, Japan curriculum, University Ca' Foscari of Venice, Italy

□職歴：

2015.11-2016.11 National Civil Service Volunteer at 'Edoardo Chiossoni' Oriental Art Museum of Genoa, Italy

2015.5-11 Hostess at World Exposition Milan 2015, United Arab Emirates pavilion

□自己紹介：

私は「エドアルド・キヨッソーネ」東洋美術館で National Civil Service Volunteer として働いています。National Civil Service というのはイタリアでの若者向け国家のための奉仕事業プログラムです。

エドアルド・キヨッソーネは、ジェノヴァ県出身、明治時代にお雇い外国人として日本大蔵省印刷局に勤めていました。キヨッソーネが日本で集めた美術は15,000点余りにのぼります。この収集品が彼の死の後にイタリアに送られ、1971年からジェノヴァ市立の「エドアルド・キヨッソーネ」東洋美術館に保管されています。

私はヴェネツィア・カ・フォスカリ大学で日本語や日本芸術歴史や日本文学などを勉強しましたから、この美術館にボランティアとして選ばれました。National Civil Service プログラムの目的は主に博物館収集を促進し、異なる文化の交流を発展することです。私の仕事は、さまざまな異なるテーマ別ガイドツアーすることだけでなく、子供向け教育的なワークショップも計画し、行うことです。そして、現在に展示されている特別展「日本画のアンソロジー」という絵画の展示会の準備に参加しました。特に、館長の指導及び指示によって作品の配置を計画しました。それに、他のボランティアの方と一緒に、エドアルド・キョッソーネによって収集された明治時代の郵便切手、州の絆、法案、証明書などのコレクションを手配し、再び整理しています。この仕事は、館長と修復者の指導に従って実行されています。キョッソーネ美術館の経験のおかげで、芸術の人類学的な観点を開発しました。というのは、芸術は文化の表現力としてだけでなく、他の文化との重要な接点だと思えます。ですので、日本と他の文化の間での知的で芸術的な交換に非常に興味を持って、将来にも芸術と文化の分野で仕事したいと思えます。



■ アンカ・フォクシェネアヌ / Anca Focșeneanu

□学歴:

1991-1996 ブカレスト大学外国語学部日本語学科 学士
 1996-1997 ブカレスト大学外国語学部 修士
 2000-2002 南山大学外国語学部日本語教育専攻 修士
 2003 ブカレスト大学外国語学部 博士

□職歴:

1996-2002 ブカレスト大学外国語学部日本語学科 助手
 2002-2008 ブカレスト大学外国語学部日本語学科 講師
 2008-2014 ブカレスト大学外国語学部日本語学科 准教授
 2014-現在 ブカレスト大学外国語学部日本語学科 教授
 2002-現在 日本語学科主任
 2010-現在 ブカレスト大学日本研究センター長
 2005-2008 ルーマニア日本語教師会会長
 2011-2014 ヨーロッパ日本語教師会副会長

□フェローシップ・グラント・所属学会:

1999-2002 南山大学 文部科学省奨学金日研究生
 2004. 11 ヘント大学 客員教授
 1999-2002, 2010-現在 EAJS (ヨーロッパ日本研究会) 会員
 2016-現在 EAJRS 日本資料専門家欧州教会会員
 2010.11 秋田大学 客員教授
 2011, 2012, 2013, 2014 国際交流基金日本研究機関支援プログラム申請・実施担当者
 2012, 2013 国際交流基金ブダペストオフィス主催の PhD workshop in Japanese studies, East and Central Europe へのアドバイザーとして参加
 2014 国際交流基金ブダペストオフィス主催の Japanese Studies Conference co-organized by Japan Foundation, Budapest and Eotvos Lorand University へのアドバイザーとして参加

□受賞:

2015 在外公館長表彰 (http://www.ro.emb-japan.go.jp/UB_nihongakka40_j.html)

□研究テーマ:

Language and cultural identity, Language Policy, Language contact, Adaptation of loan words

□主要著書と翻訳:

著書・共著

2014. *Civilizatia japoneza – de la origini pana in epoca clasica* (Japanese civilization – from the origin to Heian period), Editura Eikon, Cluj-Napoca

2013 (editor) *Topics in Japanese Culture*. Publishing House of University of Bucharest

2010 『ゼロから話せるルーマニア語』 (共著). 三修社

2006. *Japanese Onomatopoeia- A typological approach*, Publishing House of University of Bucharest

日本文学からの翻訳

2006. Kawabata Yasunari. 眠れる美女 *Nemureru Bijo*, Humanitas

2009. Kawabata Yasunari. 古都 *Koto*, Humanitas

2011. Kenzaburo Oe. 静かな生活 *Shizuka na seikatsu*. RAO

2012. Nagai Kafu. 腕比べ *Ude Kurabe*, Humanitas

□自己紹介：

ブカレスト大学日本語学科のフォクシェネアヌ・アンカと申します。

日本文化・文学に興味を持ち、1991年にルーマニアで日本語・日本研究の勉強を始め、1994年に初めて日本へ留学し、1996年にブカレスト大学日本語学科を卒業後、同学科の教員になりました。同時に修士課程、博士課程に進学し、2003年に博士号を所得しました。助手、講師をへて、教授及び日本学科主任になりました。ルーマニアでの日本語の学習また日本研究の発展のため様々な勉強会、ワークショップ、学会などを主催し、ルーマニアと日本の学術交流にも勤めました。

主な研究分野は日本言語学・日本文化・社会で、特に言葉と文化・社会の関係を研究しています。現在の研究テーマは明治時代における外来語、文化的翻訳などです。

JALは素晴らしいプログラムだと考え、多くの研究者と東欧での日本研究資料・情報の現状をシェアしたく、また将来の協力を目指して、参加させていただきました。